

知れば知るほど 長岡京



西国街道を訪ねて

京都の東寺口から摂津西宮へ向かう街道です。

全長は 52 km で、紀貫之の「土佐日記」にこの街道の様子が記されていることから、平安時代に造られたといわれています。また豊臣秀吉が朝鮮出兵の際、兵を送るために整備したことから「唐街道」とも呼ばれています。その一部が長岡京市の一文橋から調子八角までの通りで、街道沿いには「神足ふれあい町家」をはじめ今も古い町並みが残っています。

①一文橋

西国街道が小畑川を渡る所にかかる橋。洪水によってたびたび流される橋の修繕のために、通行料金（一文）を取ったことからこの名が付いたといわれています。もちろん現在は無料です。



②一里塚

アゼリア通りと新西国街道との交差点の片隅に新神足村道路元標が建っています。ここは昔一里塚があったところです。当時は今より東の西国街道沿いに建っていました。西国街道を往来する旅人に距離を知らせるために、一里（約 4 km）ごとに大きな木が植えられた塚が造られました。この一里塚は東寺口から二里にあたります。



③神足館跡

江戸時代初めに永井直清が築いた城「神足館」の中心部がありました。JR 長岡京駅の西側再開発の調査で門があったところ（茶屋口）が発掘されました。

永井直清とは・・・江戸時代、直清は將軍家光より二万石を与えられ、山城国長岡藩主となりました。そこで、勝龍寺城の北に新しく、西国街道に面して、神足館をつくりました。

※案内板もなく見落としやすいです

④神足神社

当神社には「桓武天皇の夢」の伝説が残っています。天皇はある夜、田村（神足村の旧名）に天から神が降り立ち、都を襲おうとした悪霊を防いでおられたという夢をみられました。目覚められた天皇は、この神を祀るための社をたてました。神足＝神の足から、スポーツ選手もお守りを授かりに来られます。



⑤神足石仏群

神足と古市の共同墓地にあります。右手には六地藏、左手には五王像があります。いずれも江戸時代末期のものと考えられ花崗岩製です。石仏群は死後の恐怖から逃れようとする、庶民信仰から造られたといえます。



⑥神足ふれあい町家

江戸時代末の店舗と住まいを兼ねた町家で、平成 12 年に国登録有形文化財に指定されました。表構えに格子、虫籠窓（むしこまど）など、昔のまま保存されています。現在、和室は催し物や会議などに利用でき、喫茶コーナー、お土産も売っています。



（休館日 年末年始）

⑦勝龍寺城公園

1339 年、細川頼春が築城、明智光秀の娘、玉（後のガラシャ夫人）が細川忠興に嫁いだ城です。また鉄砲時代に対応した先駆的な築城技術が用いられています。平成 4 年都市公園として整備され、毎年 11 月第二日曜に「長岡京ガラシャ祭」が盛大に行われます。平成 19 年には「日本の歴史公園百選」に選ばれました。また公園内では「ガラシャおまかげの水」と名付けられた、地下水 100% の水が味わえます。

（休館日 火曜日、年末年始）



⑧勝龍寺

寺伝では、平安時代初期に帰朝された空海が、唐の長安で修行した「青龍寺」の名をとって創建されたといわれています。大干ばつ大飢饉の年に千観上人の祈祷で雨が降り、龍神に勝ったという意味から村上天皇の勅命により「勝龍寺」と改名されました。初夏には蓮が楽しめます。また、平成 18 年に「ぼけ封じ観音」が安置され、ぼけ封じ近畿十楽観音霊場の第 3 番札所になっています。



⑨伝与市兵衛の墓

西国街道沿いの立派な石碑。「高野聖寄宿供養名号碑」と呼ばれるものです。村に伝わる話では「仮名手本忠臣蔵」の早野勘平の義父・与市兵衛の死を悼んだ供養塔といわれています。



⑩中山修一記念館

「幻の都」といわれてきた「長岡京」の存在を証明した、故中山修一氏の足跡や発掘、研究の成果を知ることができます。館内には中山先生が書かれた、長岡京の復元図や解説パネル、自筆原稿、発掘の様子などが展示されていて、常時ガイドの解説を聞くことができます。

（休館日 火曜日、年末年始）



⑪友岡の道標

友岡から調子へ向かう斜め道と西国街道の交差点にあります。主に淀方面から柳谷参拝者用に建立されました。ここは、淀と柳谷を結ぶ街道の交差点で、旅人でにぎわう様子が目に浮かびます。



⑫馬の池

平安末期、近衛府の役人であった下毛野武正が関白のお供で四天王寺参りをした際、この池のほとりで落馬したという故事にちなんで「馬乗り池」「馬の池」と呼ばれるようになったといわれています。かつて、この地には八角堂に寄進する田地があったので、八角と呼ばれるようになったそうです。現在は埋め立てられています。

